

日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04

<愛称 Jプラス 2005-04>

単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

償還 交付運用報告書

第34期（償還日2021年9月28日）

作成対象期間（2021年7月27日～2021年9月28日）

第34期末（2021年9月28日）

償 還 価 額	8,331円79銭
純 資 産 総 額	249百万円
第34期	
騰 落 率	△ 0.7%
分配金（税込み）合計	－円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんので留意ください。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04」は、2021年9月28日に償還いたしました。

当ファンドは、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっておりましました。

ここに、信託期間中の運用経過等についてご報告申し上げます。

これまでのみなさまのご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<624101>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

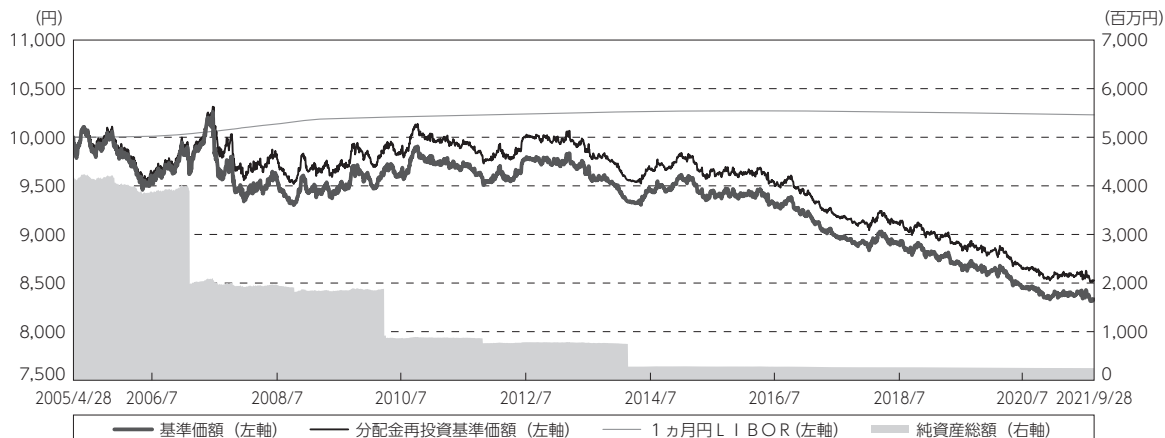
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

設定以来の基準価額等の推移

(2005年4月28日～2021年9月28日)



設定日：10,000円

期末(償還日)：8,331円79銭 (既払分配金(税込み)：234円)

騰落率：△14.7% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 1ヵ月円LIBORは、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なってきました。信託期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・オーストラリアドルの通貨配分が奏功したこと。
- ・イギリス国債の資産配分が奏功したこと。
- ・ドイツ国債の資産配分が奏功したこと。

<値下がり要因>

- ・スウェーデンクローナの通貨配分がマイナスに影響したこと。
- ・米国国債の資産配分がマイナスに影響したこと。
- ・イギリスポンドの通貨配分がマイナスに影響したこと。

1口当たりの費用明細

(2021年7月27日～2021年9月28日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	16	0.193	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(5)	(0.065)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(10)	(0.119)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.009)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.006	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(1)	(0.006)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.014	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.000)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.013)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	18	0.213	
期中の平均基準価額は、8,364円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

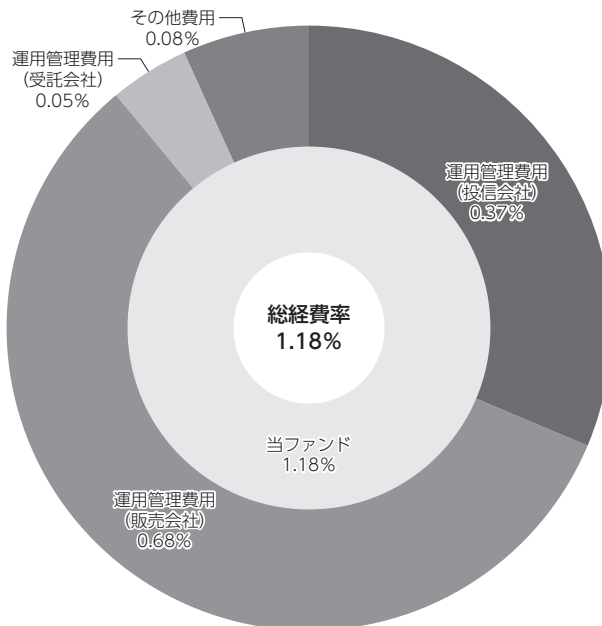
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.18%です。



(注) 当ファンドの費用は1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

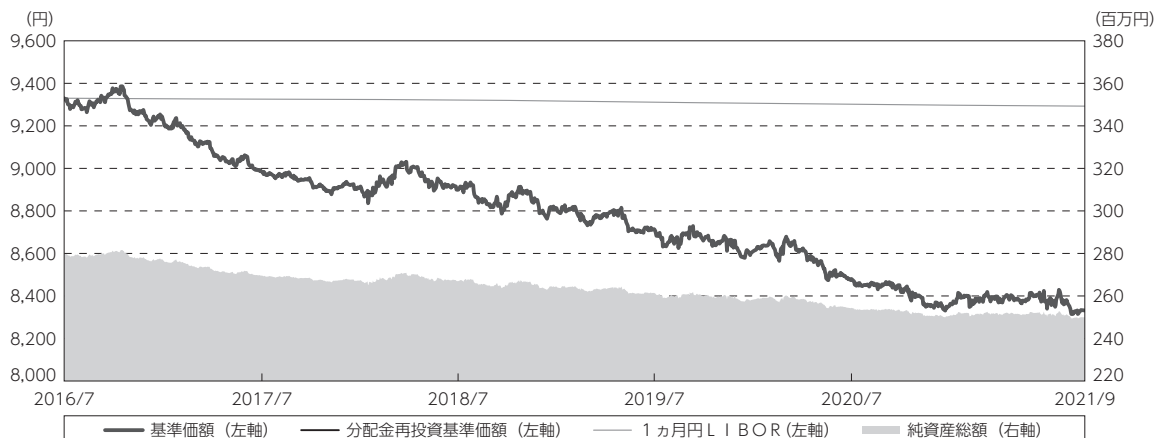
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2016年7月22日～2021年9月28日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 分配金再投資基準価額および1ヵ月円LIBORは、2016年7月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2016年7月22日 決算日	2017年7月24日 決算日	2018年7月23日 決算日	2019年7月22日 決算日	2020年7月22日 決算日	2021年7月26日 決算日	2021年9月28日 償還日
基準価額 (円)	9,330	8,985	8,899	8,714	8,480	8,391	8,331.79
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0	—
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.7	△ 1.0	△ 2.1	△ 2.7	△ 1.0	△ 0.7
1ヵ月円LIBOR騰落率 (%)	—	△ 0.0	△ 0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.0
純資産総額 (百万円)	279	269	266	261	254	251	249

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、償還日の騰落率は償還日の直前の決算日との比較です。

(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

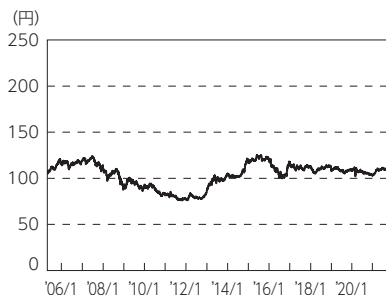
投資環境

(2005年4月28日～2021年9月28日)

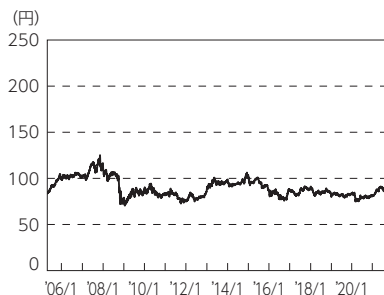
(為替市況)

信託期間中における投資先各国の通貨（対円）は、下記の推移となりました。

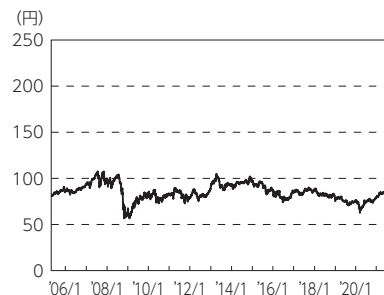
円／アメリカドルの推移



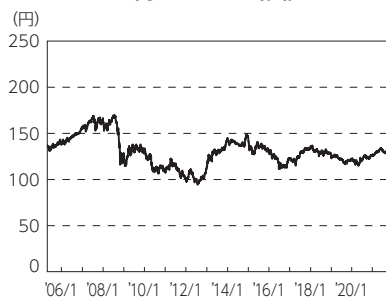
円／カナダドルの推移



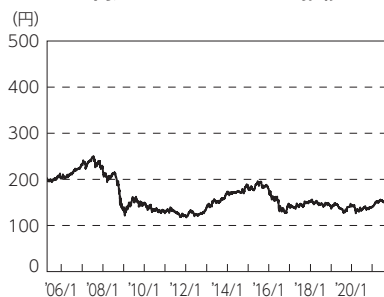
円／オーストラリアドルの推移



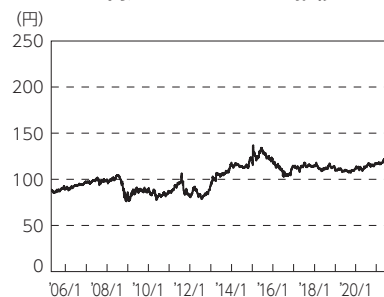
円／ユーロの推移



円／イギリスポンドの推移



円／スイスフランの推移



円／スウェーデンクローナの推移



(債券市況)

投資先各国の10年国債利回りは、期間の初めと比べて総じて低下（債券価格は上昇）しました。

期間の初めから2007年6月にかけては、景気が回復傾向となったことや、商品市況高となった局面でのインフレ懸念などを背景に金融引き締めを進めた中央銀行もあり、各国の債券利回りは総じて上昇（債券価格は下落）しました。

2007年7月から2008年12月にかけては、米国の「サブプライムローン（低所得者層を対象とした住宅融資）」問題による信用不安や、「リーマンショック」に端を発する世界的な金融危機および実体経済の急速な悪化などにより、「質への逃避」から債券買いが増加したことや、各国の中央銀行が積極的な金融緩和策を進めたことなどから、各国の債券利回りは総じて低下しました。

2009年1月から2010年3月にかけては、各国の経済対策に伴う国債の発行増加などが警戒され、各国の債券利回りは総じて上昇しました。

2010年4月から2012年7月にかけては、ギリシャの債務危機やスペインの金融システム不安などを背景とする投資家のリスク回避傾向、東日本大震災の発生、中国などの新興国を含む世界的な景況感の後退などから、各国の債券利回りは総じて低下しました。

2012年8月から2013年12月にかけては、欧州中央銀行（ECB）による債務比率の高い国の国債購入計画などを受けて欧州債務問題の再燃懸念が後退したことや、米国や中国で景気回復期待が高まったことなどを背景に、各国の債券利回りは上昇しました。ただし、日本の債券利回りは日銀の積極的な金融緩和や緩和姿勢の継続予想を受けて低下しました。

2014年1月から2016年6月にかけては、ウクライナ情勢など地政学的リスクの高まりや、原油などの資源価格の低迷を背景とした世界経済の減速懸念とインフレ観測の後退、ECBによる国債購入を含めた量的金融緩和策の実施やオーストラリア準備銀行（RBA）による利下げ実施などから、各国の債券利回りは総じて低下しました。

2016年7月から2018年10月にかけては、米国の概して堅調な内容の経済指標の発表などを受けて米国連邦準備制度理事会（FRB）が政策金利を引き上げたことや、米国の税制改革の実施による景気拡大やインフレへの期待、FRB議長の発言や堅調な内容の米国経済指標を受けて利上げが継続するとの見方が広がったことなどから、各国の債券利回りは総じて上昇しました。

2018年11月から2020年3月上旬にかけては、中国や米国の製造業指数が市場予想を下回り世界的な景気減速が懸念されたことや、貿易や通貨政策を巡る米国と中国との間の関係悪化、米国とイランとの間の対立による中東情勢の緊迫化、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による景気の先行きへの警戒感などから投資家のリスク回避姿勢が強まったこと、主要国の中央銀行が政策金利を引き下げたことなどを受けて、各国の債券利回りは総じて低下しました。

2020年3月中旬から期間末にかけては、新型コロナウイルスの感染再拡大により景気の先行きが懸念されたことや、FRB議長による議会証言から早期利上げの懸念が後退したこと、ECBがパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）における資産購入ペースを維持したこと、政策金利を据え置いたRBAが金融緩和策を継続したことなどが利回りの低下要因となったものの、欧米主要国による経済対策のための財政拡大が示されたことや、英国と欧州連合（EU）が自由貿易協定（FTA）締結交渉で合意したこと、米国新政権下での大型財政支出実施の可能性の高まり、新型コロナウイルスのワクチンや治療薬の開発進展、新型コロナウイルスのワクチン接種、普及などを背景に経済の正常化期待が高まったこと、米国連邦公開市場委員会（FOMC）においてこれまでの見込みよりも早い時期での利上げ実施が示唆されたことなどを受けて、投資対象国の10年国債利回りは総じて上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2005年4月28日～2021年9月28日)

(当ファンド)

当ファンドは、「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

当ファンドは2005年4月28日の設定以来、約16年5ヵ月にわたり運用してまいりました。このたび、約款の規定に基づき、信託終了日を2021年9月28日として償還いたしました。

これまでのみなさまのご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申しあげますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

(グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド)

主として、国内外の公社債に投資を行なうとともに、日本を含む先進各国の債券先物取引および通貨先渡取引を積極的に行ない、1ヵ月円LIBOR金利を上回る投資成果をめざして運用を行ないました。自社開発の計量モデル(日興GAAモデル)による分析をもとに、ポートフォリオの最適化を図りました。計量モデルによる運用を基本としつつ、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、モデルでは捕捉できない市場変動などに対応し、パフォーマンスの安定化をめざしました。

債券のポジションは、金利ファクターやファンダメンタルズファクターを勘案し、通貨のポジションは、金利ファクターや、マーケットファクター、ファンダメンタルズファクターを勘案しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2005年4月28日～2021年9月28日)

信託期間中における基準価額は、14.7% (分配金再投資ベース) の値下がりとなり、ベンチマークである「1ヵ月円LIBOR」の上昇率2.3%を概ね17.0%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

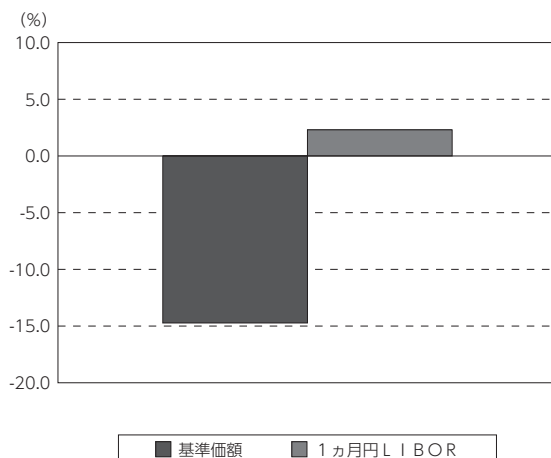
<プラス要因>

- ・オーストラリアドルの通貨配分が奏功したこと。
- ・イギリス国債の資産配分が奏功したこと。
- ・ドイツ国債の資産配分が奏功したこと。

<マイナス要因>

- ・スウェーデンクローナの通貨配分がマイナスに影響したこと。
- ・米国国債の資産配分がマイナスに影響したこと。
- ・イギリスポンドの通貨配分がマイナスに影響したこと。

基準価額とベンチマークの対比 (設定日比騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベースです。
(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2005年4月28日～2021年9月28日)

信託期間中における分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案して決定し、1口当たりの累計は234円(税込み)となりました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

お知らせ

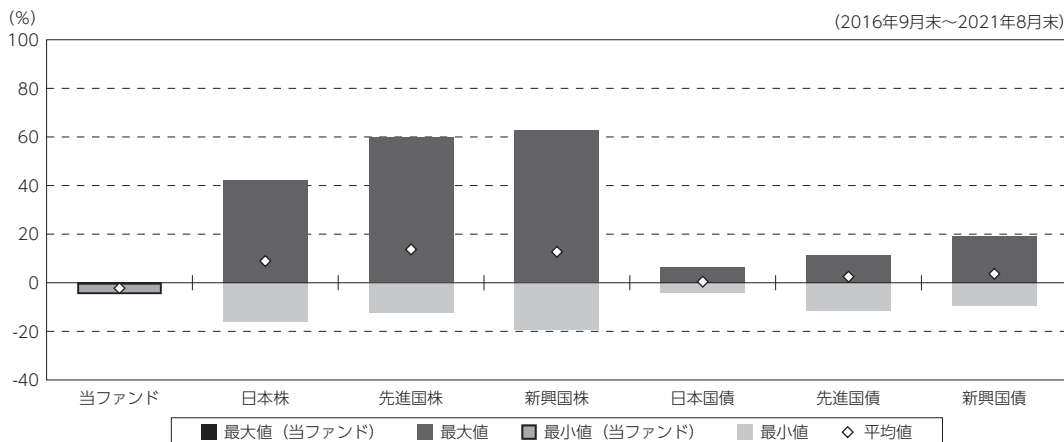
2021年7月27日から2021年9月28日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2005年4月28日から2021年9月28日までです。 (クローズド期間は、原則全期間です。)	
運用方針	主として「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。	
主要投資対象	日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04	「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド	国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利を主要投資対象とします。
運用方法	「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、世界各国の債券および通貨への投資に加え、債券先物取引および外国為替予約取引等も行ないます。世界主要国の債券および通貨を主要投資対象としたロング・ショート戦略で運用を行ないます。自社開発の計量モデル（日興GAAモデル）による分析をもとに、ポートフォリオの最適化を図ります。計量モデルによる運用を基本としますが、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、モデルでは捕捉できない市場変動などに対応し、パフォーマンスの安定化を図ります。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	0.0	42.1	59.8	62.7	6.2	11.4	19.3
最小値	△ 4.7	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 4.0	△ 11.4	△ 9.4
平均値	△ 2.2	8.9	13.7	12.8	0.4	2.5	3.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年9月から2021年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年9月28日現在)

2021年9月28日現在、有価証券等の組入れはございません。

※組み入れているマザーファンドの直近の計算期間の内容につきましては、償還 運用報告書（全体版）に記載しております。

純資産等

項 目	第34期末(償還日)
	2021年9月28日
純 資 産 総 額	249,953,767円
受 益 権 総 口 数	30,000口
1口当たり償還価額	8,331円79銭

(注) 期中における解約元本額は0円です。